

Title	株式制度の基礎理論
Sub Title	A reexamination of the stock system
Author	杉田, 貴洋(Sugita, Takahiro)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2020
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.)
JaLC DOI	
Abstract	<p>本研究は、会社法における株式制度を総合的に検討し、この領域における基礎理論の、現在の到達点を示そうとするものである。2017年度から、3か年度にわたる共同研究である。山本爲三郎教授(分担者)のコーディネートの下、高田晴仁教授(分担者)が「種類株式と属人的定め」を、柳明昌教授(分担者)が「公正な価格」の判断枠組みとマーケット・チェックの意義・射程—オークション理論を手掛かりとして」を、久保田安彦教授(分担者)が「資本充実規制の再検討」を、杉田貴洋(研究代表者)が「自己株式取得規制緩和の意義」を、それぞれ担当したほか、島田志帆立命館大学教授にも共同研究に参加をお願いし、「株式の譲渡と株主名簿制度」を担当いただいた。研究成果を、商事法務2207号(2019年8月)に発表するとともに、2019年10月5日、立教大学で開催された日本私法学会・シンポジウムにて報告した。同日は、加藤貴仁東京大学教授、白井正和京都大学教授をコメンテーターとして迎え、論評いただいた。シンポジウムの質疑は、日本私法学会学会誌・私法82号に掲載の予定である。</p> <p>The purpose of this research is to examine the contemporary significance of the basic legal principles of laws concerning stocks. We will examine multifaceted and specific issues in relation to various aspects of stocks including stock details, stock transfer, stock valuation, treasury stocks and capital. In this way, we hope to reformulate corporate legal theory. This is a collaborative research for three years from 2017. We each published papers of our our research results. We also held a symposium to report them at Japan Association of Private Law.</p>
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2019000008-20190357

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	法学部	職名	教授	補助額	542	千円
	氏名	杉田 貴洋	氏名（英語）	SUGITA Takahiro			
研究課題（日本語）							
株式制度の基礎理論							
研究課題（英訳）							
A reexamination of the stock system							
研究組織							
氏名 Name		所属・学科・職名 Affiliation, department, and position					
杉田貴洋（SUGITA Takahiro）		法学部・教授					
山本爲三郎（YAMAMOTO Tamesaburo）		法学部・教授					
柳明昌（YANAGI Akimasa）		法学部・教授					
高田晴仁（TAKADA Haruhito）		法務研究科・教授					
久保田安彦（KUBOTA Yasuhiko）		法務研究科・教授					
1. 研究成果実績の概要							
<p>本研究は、会社法における株式制度を総合的に検討し、この領域における基礎理論の、現在の到達点を示そうとするものである。2017年度から、3か年度にわたる共同研究である。山本爲三郎教授（分担者）のコーディネートの下、高田晴仁教授（分担者）が「種類株式と属人的定め」を、柳明昌教授（分担者）が「公正な価格」の判断枠組みとマーケット・チェックの意義・射程——オークション理論を手掛かりとして」を、久保田安彦教授（分担者）が「資本充実規制の再検討」を、杉田貴洋（研究代表者）が「自己株式取得規制緩和の意義」を、それぞれ担当したほか、島田志帆立命館大学教授にも共同研究に参加をお願いし、「株式の譲渡と株主名簿制度」を担当いただいた。研究成果を、商事法務 2207号（2019年8月）に発表するとともに、2019年10月5日、立教大学で開催された日本私法学会・シンポジウムにて報告した。同日は、加藤貴仁東京大学教授、白井正和京都大学教授をコメンテーターとして迎え、論評いただいた。シンポジウムの質疑は、日本私法学会学会誌・私法 82号に掲載の予定である。</p>							
2. 研究成果実績の概要（英訳）							
<p>The purpose of this research is to examine the contemporary significance of the basic legal principles of laws concerning stocks. We will examine multifaceted and specific issues in relation to various aspects of stocks including stock details, stock transfer, stock valuation, treasury stocks and capital. In this way, we hope to reformulate corporate legal theory. This is a collaborative research for three years from 2017. We each published papers of our our research results. We also held a symposium to report them at Japan Association of Private Law.</p>							
3. 本研究課題に関する発表							
発表者氏名 （著者・講演者）	発表課題名 （著書名・演題）	発表学術誌名 （著書発行所・講演学会）	学術誌発行年月 （著書発行年月・講演年月）				
山本爲三郎	株式制度の再検討：会社法における基礎的な理論の観点から	商事法務 2207号	2019年8月25日				
高田晴仁	種類株式と属人的定め	商事法務 2207号	2019年8月25日				
柳明昌	「公正な価格」の判断枠組みとマーケット・チェックの意義・射程：オークション理論を手掛かりとして	商事法務 2207号	2019年8月25日				
久保田安彦	資本充実規制の再検討	商事法務 2207号	2019年8月25日				
杉田貴洋	自己株式取得規制緩和の意義	商事法務 2207号	2019年8月25日				
山本爲三郎・高田晴仁・島田志帆・柳明昌・久保田安彦・杉田貴洋	シンポジウム・株式制度の再検討：会社法における基礎的な理論の観点から	日本私法学会（於、立教大学）	2019年10月5日				